



▶高橋さん
(自宅庭で)
「生ごみ堆肥化は食育の原点。孫にもいい教材」

◀宇佐美さん
(自宅庭で)
「これからもずっと続けていく。それは自分と地球のため」



は「フードリサイクルに取り組んでから食べ残しをしないように気を付けるようになりました。生ごみ堆肥で育てた野菜はお店で売っている野菜よりおいしいです」と話してくれました。



「堆肥化は楽しい」と佐々木さん

●子どもたちの未来のために

子どもたちと話をしていくと「将来、温暖化で札幌が東京くらい暑くなるんじゃないかと心配」という声をはじめ、地球環境全体を心配する子どもが多いことに驚かされます。子どもたちの中にある、環境問題への意識がこうした取り組みを推進しているのではないのでしょうか。ごみの問題は地球環境と結び付いています。子どもたちが安心して成長できるように、大人たちが今から率先して取り組んでいかなければなりません。

自宅を取り組む堆肥化

自宅で堆肥化に取り組んでいる方もいます。西区在住の生ごみ堆肥化の達人二人にお話を聞きました。

「自然のものは自然に返す。これが大原則でしょう」と言っつのは平和在住の高橋長吉さん。高橋さんは平和に移り住んだ昭和五十七年に堆肥化を開始。「実家が農家だったので、自分のものは自分で作るということが、私にとっては普通

なんです」と言っつ高橋さんは自宅の庭が雑草しか生えない荒地だったのを、生ごみ堆肥で緑豊かな菜園に育て上げました。平成十七年に、市の生ごみ堆肥化助成事業に参加する際、友人に声を掛け「平和利再来留クラブ」を結成。助成事業が終わった現在も十三世帯で情報交換をしながら活動中です。「添加物も一切なし。自分で作る野菜は私にとっては一番の健康食品です」と高橋さんは胸を張ります。



「私たちが地球のためにできることとして、こういうことじゃないですかね」と言っつのは福井在住の宇佐美達也さん。宇佐美さんは「福井のなかま」というグループで堆肥化に取り組んでいます。今まで、□□ミなどでグループに加わったことがある人は九十人にもなるそうです。「途中でやめてしまいう人もいますが、もったいないと思います。生ごみ堆肥を使って、自分で作った野菜は、市販の野菜とは比べ物にならないほどおいしいんですから」と言っつ宇佐美さん宅の庭でもたくさん野菜が栽培されています。

●生ごみ堆肥化は一石三鳥？

近年、食品の偽装事件が後を絶たず、食の安全への関心が高まっていますが、生ごみを堆肥化して自分で栽培した野菜なら、安心し□□する□□ができます。

ご家庭(室内)でもできる簡単な方法を2つ紹介します。早速実践してみましょう！

家庭で取り組む 生ごみ堆肥化の方法

段ボール箱



- ①段ボール箱を組み立てます。(底を二重にし、足とふたを用意)
- ②ピートモスともみ殻くん炭を3:2の割合で混ぜたものを箱の深さの半分くらいまで入れて混ぜます。
- ③1日1回または生ごみを入れるたび、よくかき混ぜ空気を取り入れます。
- ④3ヵ月ほど続いたら、生ごみの投入をやめ、時々かき混ぜます。
- ⑤1~2週間後、土と混ぜ、さらに1~2ヵ月置くと、堆肥の出来上がりです。

※箱の各面で通気性を確保してください(壁から5センチほど離す)。

密閉式容器



- ①密閉式容器に生ごみを入れ、EMポカシを振り掛けます。
- ②あえ物を作る要領でポカシをなじませ、しゃもじなどで生ごみの間にある空気を押し出します。
- ③発酵が進むと容器の下に発酵液がたまるので小まめに取り出します。
- ④容器の8分目くらいになったら、ふたをしたまま直射日光を避け1~2週間置いたあと、容器の中身を土とよく混ぜ合わせ、さらに1ヵ月ほど置くと堆肥の出来上がりです。

※容器の底にたまる発酵液は希釈して液肥として使えます。

達人が伝授!

堆肥化のポイント

- ・生ごみの水分をよくきる
余分な水分は発酵の妨げに
- ・ふたはしっかり閉める
虫の発生を防ぎます
- ・続ける気持ち大切に
何事も情熱が大切です

※西清掃事務所では、自宅に庭がない人のために出来上がった堆肥を受け入れています。詳しくは西清掃事務所Tel. 664-0053